

国際化学肥料ニュース（2025年2月）

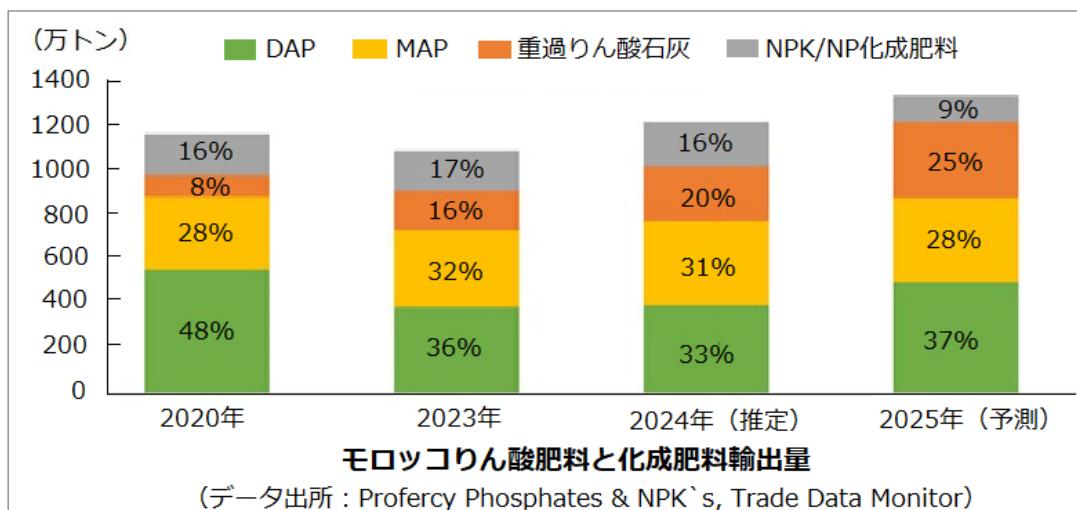
肥料業界の2025年2月動態

- * カナダ肥料協会（Fertilizer Canada）は、アメリカ政府による北米の肥料貿易に影響を及ぼす輸入関税を懸念している声明を発表した。カナダ肥料協会は肥料が食糧安全保障において重要な役割を果たしており、関税は食糧生産を脅かし、食品サプライチェーンに連鎖的な悪影響を及ぼす可能性があり、関税を課すことがアメリカの農業生産者にとって不可欠な肥料のオープンな貿易関係を危険にさらすことになると指摘する。また、アメリカがカナダの肥料輸入に関税を課すことは、アメリカ市場を環境、人権、貿易慣行が同じではないロシアや中国などの国に有利になるように歪め、両国の重要な貿易目標を損なうことになると重ねて指摘している。
- * 2月第1週（2月3～9日）の尿素国際価格が再び急騰した。東半球ではインドRCF社が1月27日に発表した尿素国際入札結果を受け、中東産大粒尿素のFOB価格が420～430ドル／トンに上昇した。サウジアラビアのSabic社の3月引渡しの小粒尿素もFOB420ドル／トン、カタールのQatar Energy's社が行った3万トン大粒尿素の販売入札に最高応札価格がFOB430ドル／トンで、インドネシアのPupuk社の大粒尿素の最新価格はFOB438ドル／トンである。
西半球ではエジプト産大粒尿素のFOB価格が455ドル／トン、ナイジェリアのDangote社の大粒尿素もFOB410ドル／トンに上がった。輸入側では、CFR地中海460ドル／トン、CFRブラジル440ドル／トンになった。
- * 2月第2週（10～16日）の尿素国際相場は7週連続上昇している。東半球では、2月にインドが再び尿素入札を行う噂があり、尿素輸出がほぼ不可能の中国を除き、中東産尿素のFOB価格が420ドルを超えて、インドネシア産大粒尿素のFOB価格が465ドル／トンに達し、年初1月より19%も上がった。オーストラリアでも大粒尿素のFOB価格が440ドル／トンを超え、2022年以来の高値となった。イランは天然ガス不足で、一部の工場が減産となり、輸出量も大幅に減少し、大粒尿素のFOB価格が377～390ドル／トンに上昇した。中国は引き続き尿素の輸出を厳しく規制している。
西半球では、エジプト産大粒尿素のFOB価格が460ドル／トンとなり、年初1月より13%上がった。ナイジェリア産大粒尿素の入札結果が公表されていない。ただし、南米の需要が一段落して、大粒尿素のCFRブラジル価格が440～450ドル／トンに維持している。それに伴い、アメリカのFOB Nolaが420ドル／トンとやや下がった。カナダ

にある Yara の生産能力 110 万トンの Belle Plaine 尿素工場が技術の問題で稼働を停止しているため、カナダとアメリカ北部に尿素供給不足の恐れが生じる。

* 最新の Office Des Changes データによると、モロッコの OCP 社は 2024 年の肥料輸出量は前年の 1095 万トンより 13% 増加し、過去最高の 1237 万トンに達した。りん酸肥料の国際貿易に占めるシェアは 2020 年の 8% から 2024 年に 20% に上がった。

また、OCP は 2025 年末にりん酸肥料と化成肥料の生産能力が約 1650 万トンに達し、2025 年に 1400 万～1420 万トンりん酸肥料と化成肥料を生産し、2024 年よりさらに 110 万トン多い 1340 万～1350 万トンを輸出すると予測されている。2025 年以降も生産能力の拡大が止まらず、新規プラントの完成と既存プラントの拡張で、2027 年までに 2000 万トンに引き上げる予定で、2030 年に年間生産能力 2900 万トンに達する計画である。OCP 社の 2020～2025 年りん酸肥料と化成肥料輸出量を下記の図に示す。



* ブラジルの Brazil Potash 社は同社の 100% 子会社であるポタシオ・ド・ブラジル社を通じて、スイスの商社 Keytrade AG 社との間に Brazil Potash 社が開発中の Autazes 加里プロジェクトから年間最大 100 万トン加里を引取る覚書を締結した。Autazes プロジェクトはブラジル国内最大の加里開発プロジェクトで、設計年間生産能力 240 万トン塩化加里、2029 年から稼働し始める予定である。

* ロシアの Uralkali 社は鉱山のメンテナンスにより 2025 年に 30 万トン以上の塩化加里を減産することを発表した。Uralkali 社が所有する Berezniki 鉱山、Berezniki-4 鉱山と Solikamsk-3 鉱山の 3 カ所の加里鉱山は 2025 年第 2 四半期と第 3 四半期にメンテナンスのために稼働を一時停止して、第 2 四半期に 30 万トン塩化加里を減産し、第 3

四半期の減産数量が未定である。また、Uralkali 社は国内供給を重視して、2025 年の国内加里肥料販売量を 40 万トン増やすこと、2025 年上半期の輸出量がほぼ全量契約されたことも発表した。

* 2 月第 3 週（17～23 日）の尿素国際相場は各地のバイヤーは高値を敬遠して、購入をためらうため、高値安定の状態である。東半球では噂されているインドの新しい尿素国際入札は 3 月に延期されるようで、中東産尿素の販売契約が全くない。イラン尿素は天然ガス不足により生産が回復されず、FOB 價格が 378 ドル／トンを維持している。

西半球では、ナイジェリアの Dangote 社は 20 日に開札された尿素販売に応札者がなく、流された。リビアの NOC 社は 19 日に開札された尿素販売に最高応札価格は FOB390 ドル／トンである。エチオピアの 30 万トン尿素購入国際入札が 20 日に締め切ったが、開札されず、応札価格が不明である。アメリカの FOB Nola 價格が 380～412 ドル／トンになり、前週より 10～30 ドルも下がった。大粒尿素の CFR ブラジル価格も 435～445 ドル／トンで 5 ドル下がった。

* 2025 年に入ってから中国国内加里肥料価格が急速に上がり、2 月中旬の塩化加里価格が昨年 12 月末に比べ、トン当たり 50 ドルも値上げられ、3000 人民元まで高騰した。年初時点では中国の塩化加里港在庫量（国の備蓄分を含む）が約 300 万トンと平年よりやや多いであったが、7 週間で在庫量が約 50 万トン減少したとの報道や、春の耕作シーズン需要の高まり、ベラルーシやロシアからの海外供給の大幅減少への懸念など、複数の要因が重なり、異例の大幅な価格上昇を余儀なくされた。

中国は国内塩化加里生産量が需要量の半分未満で、不足分を補うために毎年 700～1000 万トンを輸入している。また、中国の加里肥料輸入には免許制を採用して、政府から許可されている加里肥料輸入資格を有する企業が 10 社しかない。さらに輸入をコントロールするために直接外国加里メーカーと契約できるのは国営の中国化工と中国農業生産資材の 2 社に限られる。加里肥料輸入の寡占化により、輸入実態の不透明化などが招かれ、今回の値上げの間接的な起因ともなっている。

大手各社の営業業績

* ノルウェーの Yara 社は 2024 年第 4 四半期の業績を発表した。アンモニア生産量が 4.2% 減の 179.2 万トン、肥料生産量が 1.7% 増の 501.8 万トン、販売量が 5.5% 増の 560.1 万トン。肥料価格の下落で EBITDA が約 10% 減の 5 億 1900 万ドル、純利益が 2 億 6000 万ドルの為替差損と特別項目の 1 億 7000 万ドルマイナスの影響で 2 億 9000 万ドルの赤字である。

* カナダの Nutrien 社は 2024 年の業績を発表した。加里肥料販売量 1390 万トン、窒素肥料販売量 1070 万トン、りん酸肥料販売量 240 万トン。肥料価格の下落で、売上高が 11% 減の 259 億 7200 万ドル、EBITDA が 12% 減の 53 億 5500 万ドル、純利益が 45% 減の 7 億ドル。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

* フランスの Total Energies 社はノルマンディーで甜菜製糖の残留物ビートパルプを原料とするバイオメタン生産設備 Bio Norrois の稼働が開始したことを発表した。Bio Norrois はフランス国内 8 番目のバイオメタン生産ユニットで、年間 153 GW/h のバイオメタンと 15 万トンの有機肥料を生産する能力がある。生産される 15 万トン有機肥料はフランスの大手製糖グループであるクリスタル・ユニオンと地元のノーマン協同組合 NatUp がパートナー農場で肥料として最大限に活用する予定で、年間 5,500 トン以上の化学肥料と 3 万トン CO₂ の排出量が削減される。

その他

* EU 肥料協会 (Fertilizer Europe) は、非生物由来の再生可能燃料 (RFNBO) の生産における再生可能電力の割合に関する要件を定める委任法（「追加性」委任法）の影響を緊急に評価するよう求めている。

EU の再生可能エネルギー指令 III (RED III) は、RFNBO が 2030 年までに産業部門に使用される水素の少なくとも 42%、2035 年までに少なくとも 60% を占めなければならぬと規定している。この目標は、水素消費量の多い部門ほど影響が大きくなる。化学肥料業界、特にアンモニア合成功場は、EU における水素の主要な生産者および消費者で、EU 全体の水素消費量の 40% (石油精製所を除くと 90%) を占めている。

EU 肥料協会は EU 境内のアンモニアメーカーが RFNBO により競争上の不利な状況にさらされていると指摘し、RFNBO 追加性基準の延期、再生エネルギーによる電解槽の稼働基準柔軟化、低炭素電力を RFNBO の対象に入れることを要求している。

* アメリカアイオワ州の農業ソリューション企業 Landus 社と農業テクノロジー企業 TalusAg 社は、北米初で唯一のモジュラーシステムを使用して、商業用のグリーンアンモニア生産を開始したことを発表した。アメリカのクリーン水素生産税額控除の支援を受けた TalusAg 社の商用モジュールシステムは、再生可能な電力、水、空気のみを使用して、最大 20 トン／日のアンモニアを生産することができる。TalusAg 社は戦略的パートナーシップを通じて、アメリカ国内に普及することも計画している。

* オーストラリアの NH3 Clean Energy 社（旧 Hexagon Energy Materials 社）は同社の WAH2 プロジェクトからクリーンアンモニアを輸出するオプションを検討するため、西オーストラリア州の Pilbara 地域の港を管理する Pilbara 港湾局と覚書を締結したことを発表した。その内容は WAH2 プラントのフェーズ 1 で生産される 60 万トンクリーンアンモニアを Dampier 港のバルク液体ベースを経由して出荷し、主に Pilbara から鉄鉱石を輸出するために使用される船舶の燃料として供給し、オーストラリアの鉄鉱石輸出の脱炭素化に貢献し、Dampier 港をクリーン燃料の燃料補給拠点にするものである。

WAH2 クリーンアンモニアプラントは 2025 年第 1 四半期に基本設計（FEED）を開始して、2026 年上半期に最終的に投資計画（FID）を決定し、着工する計画である。

* アメリカの Pivot Bio 社は人工設計の窒素固定微生物を作物に付着させ、大気中の窒素を固定して作物に利用させる製品を世界に普及することを発表した。

Pivot Bio 社はマサチューセッツ工科大学の Chris Voigt 教授と Karsten Temme 氏、Alvin Tamsir 氏の 3 名で設立したベンチャー企業で、マメ科植物の根粒菌を元に窒素固定微生物を設計し、その微生物コロニーは作物とともに成長し、作物が必要とする窒素を生成する製品を開発した。2019 年からその微生物製品の現場実験を開始し、2023 年から生産者と企業を結びつける N-Ovator プログラムを開始した。すでにアメリカの何百万エーカーもの農地でトウモロコシ、小麦、大麦、オート麦、その他の穀物の栽培に使用されており、窒素固定で作物に必要な総窒素量の約 4 分の 1 に相当する量を提供することができるという結果が得られたという。

* エジプトの肥料会社 MOPCO はエジプトの Damietta にある 3 ヶ所のアンモニアおよび尿素工場にドイツ ThyssenKrupp Uhde 社は開発した炭素回収および利用システム（CCU）を導入すると発表した。その技術を利用して、既存のアンモニア合成設備の天然ガス消費量を約 10% 削減し、排ガスから最大 145,000 トンの CO₂ を除去することができる。また、CO₂ 排出量をさらに削減するために、再生可能エネルギーを使う水の電気分解ユニットからグリーン水素原料を調達し、年間最大 150,000 トンのグリーンアンモニアを生産する予定である。

* オランダの LBC Vlissingen 社はオランダの North Sea 港にアンモニア専用ターミナルの建設を開始することを発表した。Westerschelde River の入り口に位置するこのターミナルは、EU 向けのアンモニアの輸入、貯蔵、水素への変換を促進するグリーンエネルギー ハブとして機能し、第 1 フェーズは 150,000 m³ のアンモニア貯蔵能力を備え、将来的には年間 350 万トンアンモニアを取り扱うまで拡張可能である。また、アン

モニアを水素に変換する工業規模のアンモニア分解施設も揃う。LBC は、2024 年 12 月に岸壁と桟橋の建設許可を取得し、2028 年第 4 四半期に稼働を開始する予定である。